

同時発表：観光庁

平成 30 年 12 月 20 日

「スポーツ文化ツーリズムアワード 2018」受賞団体の決定について

スポーツ庁、文化庁、観光庁は、各地のスポーツや文化芸術の融合により、新たに生まれる地域の魅力を国内外に発信し、訪日外国人旅行者の増加や国内観光の活性化を図るための三庁の施策連携の取組として「スポーツ文化ツーリズム」を推進しています。

今般、平成 30 年 7 月 31 日から 9 月 18 日までに募集した「スポーツ文化ツーリズムアワード 2018」について、受賞団体・取組を下記のとおり決定いたしましたので、お知らせします。

〈マイスター部門入賞〉

○NPO法人 きらり水源村

「カヤックで農業用水路を下る！「イデベンチャー」」

○一般社団法人 日本スポーツ雪かき連盟

「国際スポーツ雪かき選手権」

○一般社団法人 ルーツ・スポーツ・ジャパン

「地域の魅力・文化を引き出しサイクルツーリズムで通年誘客を実現するツール・ド・ニッポン」

〈チャレンジ部門入賞〉

○株式会社 サムライプロデュース

「十勝ナイトリバークルージング」

○一般社団法人 山形バリアフリー観光ツアーセンター

「世界一自由な空へつばさに乗って行こう 南陽は空もバリアフリー 空飛ぶ車椅子体験」

〈担当〉

文化庁 文化経済・国際課

課長補佐 林 保太（内線 4847）

連携推進係 尋木 なつみ（内線 4855）

スポーツ庁 参事官（地域振興担当）付

専門官 高下 栄次（内線 3929）

企画係(併)庶務係 森山 寛子（内線 3932）

電話：03-5253-4111（代表）

<マイスター部門入賞>

■NPO法人 きらり水源村

「カヤックで農業用水路を下る！「イデベンチャー」

(取組概要)

熊本県菊池市の中山間地域で廃校を活用する目的で立ち上げられたNPO法人が実施。地域の農業者の協力を得て、農業用水路（井手）をカヤックで下る稀有な体験プログラム「原井手（はるいで）下リアドベンチャー（通称：イデベンチャー）」。菊池市やツアー会社と連携してPRを強化し、年々参加者が増加している。

(選定理由)

- ・地域の文化資源である農業用水路（井手）をうまく活用して、スポーツアクティビティに転換している。
- ・スポーツとエコロジーツアーをうまく掛け合わせている。

■一般社団法人 日本スポーツ雪かき連盟

「国際スポーツ雪かき選手権」

(取組概要)

北海道小樽市において、住民にとっては厄介者の雪が、雪の降らない地域から訪れる訪日外国人にとって憧れの存在であることに着目し、逆転の発想で雪かきを社会貢献と組み合わせた冬のアクティビティとした。2014年から毎年一回実施。留学生や海外からの参加者を増やす取組を継続的に行っている。

(選定理由)

- ・「雪かき」という雪国の社会問題を、逆転の発想でスポーツ化。多くの人に参加して楽しむイベントにするとともに、社会貢献・地方創生にもつなげている。
- ・新しいスノースポーツであり、外国からの更なる参加増も期待できる。

■一般社団法人 ルーツ・スポーツ・ジャパン

「地域の魅力・文化を引き出しサイクルツーリズムで通年誘客を実現する
ツール・ド・ニッポン」

(取組概要)

地域に合わせたコース設定に文化資源の魅力も組み合わせた「ツール・ド・ニッポン」というサイクリングイベントを2012年から開催。ツアー会社と連携して外国人サイクリストを日本に呼び寄せるとともに、各地域でエスコートライダーの養成も行うなど、地域との連携を深め、継続性を確保している。

(選定理由)

- ・全国で行われているイベントだが、自転車イベントを通して、それぞれの地域ならではの形に落とし込み、海外からの誘客にもつなげる「仕組み」として優れている。

<チャレンジ部門入賞>

■株式会社 サムライプロデュース

「十勝ナイトリバークルージング」

(取組概要)

自然豊かな帯広川を使った、日本では類を見ない夜のボートクルージング。街中にありながらも普段では気がつきにくい自然界の音や満天の星空が水面に創り出す美しい景観など、非日常を体験できる。クルージング後には、地元のスイーツと共にティータイムを楽しむ。十勝ならではの自然と恵みを満喫できる。

(選定理由)

- ・自然をうまく活用したナイトタイムエコノミーの取組であり、インバウンドを含め、今後の発展が大いに期待される。
- ・自然相手にしつつも、季節限定ではなく、年間を通して運営している点は評価できる。

■一般社団法人 山形バリアフリー観光ツアーセンター

「世界一自由な空へ つばさに乗って行こう 南陽は空もバリアフリー
空飛ぶ車椅子体験」

(取組概要)

山形県にある南陽スカイパークは、日本で唯一車椅子のパラグライダーフライトを行っている。2016年から受入れを開始し、26名の方がフライトを行った。海外からのバリアフリーインバウンドの誘客にも取組み、バリアフリー観光を積極的に進めている。温泉や季節の果物等豊富な観光資源を活用し、地域全体の発展を推進している。

(選定理由)

- ・車椅子でのパラグライダーは、車椅子利用者のみならず、高齢者や視覚障がい者などにもスポーツをする楽しみを届ける取組として評価できる。
- ・地域と密接に連携して、バリアフリーインバウンドの誘客に取り組んでおり、今後の発展が期待できる。

(1) 「スポーツ文化ツーリズムアワード」とは

スポーツ庁、文化庁、観光庁の三庁は、2016年3月に「スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定」を締結し、スポーツや文化芸術資源の融合により、新たに生まれる地域の魅力を国内外に発信し、訪日観光客の増加や国内観光の活性化を図るための取り組みを推進するため、「スポーツ文化ツーリズムアワード」を2016年度から実施しています。

第3回となる「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」では、スポーツ文化ツーリズムの成功事例としての「マイスター部門(※1)」と、今後の展開が有望視される事例としての「チャレンジ部門(※2)」の二つの部門での表彰を実施します。

※1:マイスター部門:過去3回以上のイベント開催実績又は3年以上継続的な取組であり、国内外の観光客の増加に寄与しているもの。

※2:チャレンジ部門:マイスター部門の応募条件を充足しないが、1回以上の実施実績がある取組であり、地域への国内外からの観光客の増加効果が期待できるもの。

(2) 今後のスケジュール

2019年1月24日(木)に開催予定の「スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」(※詳細は後日公表予定)に合わせて「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」表彰式を開催し、受賞団体に対して、三庁長官が表彰を行う予定。

(3) これまでの受賞団体・取組について

・第1回(2016)

○大賞:瀬戸内しまなみ海道振興協議会

「サイクリストの聖地「瀬戸内しまなみ海道」を核としたサイクルツーリズム」

○スポーツ庁長官賞:兵庫県姫路市「世界遺産姫路城マラソン」

○文化庁長官賞:青森県十和田市「スポーツ流鎚馬大会」

・第2回(2017) マイスター部門と、チャレンジ部門の2部門を新設

〈マイスター部門奨励賞〉

○びわ湖パノラマウオーク実行委員会

「おごと温泉を拠点とした世界文化遺産・日本遺産を繋ぐ「おごと温泉・びわ湖パノラマウオーク」」

○株式会社南都「沖縄に残された最後のフロンティア南の島の洞くつ探検」

〈チャレンジ部門入賞〉

○大阪城トライアスロン2017大会組織委員会

「大阪城トライアスロン2017/NTT ASTC トライアスロンアジアカップ」

○株式会社ゴルフダイジェスト・オンライン

「日本初!雪上ゴルフ体験ウィンターゴルフ IN 北海道」

○香川県土庄町「小豆島一周サイクリング&無人島BBQ」